茨城県景気ウォッチャー調査
（平成18年3月調査分）

調査の目的

- 経済の第一線で働いている人々から，景気に関する生の情報を得ます。
- その景気に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに，迅速に公表します。
- 県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料となります。

調査の概要

- 調査客体数…県内各地域（県北，県央，鹿行，県南，県西）ごとに60名，計300名です。
- 調 査 内 容…景気の現状，先行き判断とその判断理由を質問します。
- 調 査 時 期…四半期（６，９，12，３月）ごとに実施し，翌月公表します。

結果の概要（回答率 96.0%）

景気現状判断 DI		景気先行き判断 DI	
県全体	**53.1**（－1.0）	**県全体**	**57.1**（＋4.4）
県北地域	**46.6**（－5.6）	**県北地域**	**51.7**（＋2.6）
県央地域	**54.5**（＋3.6）	**県央地域**	**55.9**（＋3.3）
鹿行地域	**51.3**（－3.0）	**鹿行地域**	**59.3**（＋7.1）
県南地域	**57.6**（－3.2）	**県南地域**	**64.0**（＋7.1）
県西地域	**55.7**（＋3.2）	**県西地域**	**54.4**（＋1.9）

※（　）は前回調査（平成17年12月）との比較をしたものです。

※ DI（Diffusion　Index）
景気動向を判断するために使用される指標の一つであり，景気の方向性（景気が上向きか下向きか）をみるもので，**50が横這いを表しています。**茨城県景気ウォッチャー調査では，回答を区分ごとに点数であらわし，その点数を回答構成比（%）で乗じて DI を算出しています。

● ３か月前と比較した景気の現状判断 DI は，「良くなっている」「やや良くなっている」の回答構成比が減少し，「悪くなっている」の回答構成比が増加したため，1.0ポイント減の**53.1**となったものの，前回調査に引き続き，**横這いを表す50は上回りました。**

これは，寒さの影響により，サービス業や農林水産業で「悪くなっている」「やや悪くなっている」との回答が多かったためです。一方，飲食業や小売業，住宅関連業種では，客数や客単価が増加しているという声が，県内全域から聞かれました。

≪主な判断理由≫
- 雪によるクローズや寒さの影響もあり，来場者数・売上げとも対前年比で20％以上少ない。（県北＝ゴルフ場）
- 住宅展示場を訪れる客数及び請負金額が増加している。（県央＝住宅販売会社）
- 厳冬期に高騰した青物野菜の価格が急落した 。（鹿行＝農業関係者）
- TV や DVD レコーダー等の高額商品の売上げが順調に推移している。（県南＝家電販売店）
- 企業の接待関係客が増加している。客単価も上がっている。（県西＝和食レストラン）

● ３か月先の景気の先行き判断 DI は，「良くなっている」「やや良くなっている」の回答構成比が増加し，「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答構成比が減少したため，4.4ポイント増の**57.1**となり，前回調査に引き続き，**横這いを表す50を上回りました。**

これは，飲食業やサービス業，小売業で「良くなっている」「やや良くなっている」との回答が多かったためです。

暖かくなり観光シーズンを迎えることや，水戸駅南口の再開発や大洗アウトレットモール等，新たな大型商業施設のオープンに期待する声が多数聞かれました。一方で，同業者との競争激化とこれに伴う二極化の進展を懸念する意見が目に付きました。

≪主な判断理由≫
- 高額な商品でも，それだけの価値があるものは売れている。欲しいものを買うだけの余裕が出てきたのではないか。（県北＝コンビニエンスストア）
- 大型商業施設の新設が目白押しなので，今後求人数は増加する一方だと思う。（県央＝公共職業安定所）
- ５～６月頃は，１年で１番忙しい時期であり，売上げも期待できる。（鹿行＝観光名所職員）

・30年以上続いた減反政策が終わることにより，各方面で問題視されている格差が，農業分野においても生じてくるのではないか。（県南＝農産物直売所）
・中国メーカーの参入により，国内の業者を交えた仕事の取り合いは，今後益々激しくなりそうである。（県西＝製造業〔石材業〕）

地域別の動向

地域別の現状判断 DI は，**県北を除く４地域で横這いを表す50を上回りました。**
一方，地域別の先行き判断 DI は，**県内５地域の全てで，横這いを表す50を上回りました。**

1　県北地域

⑴　現状判断：３か月前と比較した景気の現状判断 DI は**46.6**であり，12月調査分と比べて5.6ポイント下回りました。また **DI 値は全県を通じて最も低くなりました。**業種別にみてみると，雇用関連 DI は横這いでしたが，家計動向関連 DI 及び企業動向関連 DI は12月調査分を下回りました。

≪主な判断理由≫
・求人が増え景気が回復しているように見えるが，次年度計画のための補充であり状況は変わっていない。（求人開拓員）
・銅・アルミの価格高騰に歯止めがかからないうえ，原油高騰の影響が樹脂材料をはじめとする関連加工製品等の価格にも波及している。（製造業〔輸送用機械器具〕）

⑵先行き判断：３か月先の景気の先行き判断 DI は**51.7**であり，12月調査分と比べて2.6ポイント上回りましたが，**DI 値は全県を通じて最も低くなりました。**業種別にみてみると，家計動向関連 DI は12月調査分を上回りましたが，企業動向関連 DI 及び雇用関連 DI は12月調査分を下回りました。

≪主な判断理由≫
・歓送迎会や花見の人出に期待したい。（タクシー運転手）
・雇用環境もある程度落ち着き，サイクル的に好調から下降に転じてくると考えられる。（人材派遣業）

2　県央地域

⑴　現状判断：３か月前と比較した景気の現状判断 DI は**54.5**であり，12月調査分と比べて3.6ポイント上回りました。業種別にみてみると，家計動向関連 DI 及び企業動向関連 DI は12月調査分を上回りましたが，雇用関連 DI は横這いでした。

≪主な判断理由≫
・春の観光シーズンに入り，晴れて暖かい日には来場者も順調に伸びている。（観光名所）
・水戸駅南地区では，幾つものマンション建設現場が建ち並び，非常に活気がある。（非製造業〔建設業〕）

⑵　先行き判断：３か月先の景気の先行き判断 DI は**55.9**であり，12月調査分と比べて3.3ポイント上回りました。業種別にみてみると，家計動向関連 DI 及び雇用関連 DI は12月調査分を上回りましたが企業動向関連 DI は12月調査分を下回りました。

≪主な判断理由≫
・消費税率や金利の引上げへの不安感による駆け込み需要が見込まれる。（住宅販売会社）
・ゴミの有料化をはじめ，公共料金の値上げだけが先行していては，消費者の財布のヒモが緩むとは思えない。（製造業〔食品〕）

3　鹿行地域

⑴　現状判断：３か月前と比較した景気の現状判断 DI は**51.3**であり，12月調査分と比べて3.0ポイント下回りました。業種別にみてみると，家計動向関連 DI は横這いでしたが，企業動向関連 DI 及び雇用関連 DI は12月調査分を下回りました。

≪主な判断理由≫
・景気回復と言われているが，消費されている商品は限定されている。（小売業〔薬品店〕）
・年末年始と比べて荷動きが悪い。（製造業〔食品〕）

⑵　先行き判断：３か月先の景気の先行き判断 DI は**59.3**であり，12月調査分と比べて7.1ポイント上回りました。業種別にみてみると，家計動向関連 DI は12月調査分を上回りましたが，企業動向関連 DI 及び雇用関連 DI は横這いでした。

≪主な判断理由≫
・鉄鋼業界の景気動向がやや上向きなので，顧客の企業も仕事が忙しいらしい。これに伴い，商品も活発に動くと見込まれる。（小売業 [金物店]）
・原油価格の高騰や電気蒸気の高値はまだ続いているので，将来的に大きな変化はないと思う。（製造業〔化学工業〕）

4　県南地域

⑴　現状判断：３か月前と比較した景気の現状判断 DI は**57.6**であり，12月調査分と比べて3.2ポイント下回りましたが，**DI 値は全県を通じて最も高くなりました**。業種別にみてみると，雇用関連 DI は12月調査分を上回りましたが，家計動向関連 DI 及び企業動向関連 DI は12月調査分を下回りました。

≪主な判断理由≫
・求人広告では，正社員の募集が少し増加しているように見える。（学校就業関係者）
・寒さが厳しかったため，客入りが悪かったように思う。（レジャー施設）

⑵　先行き判断：３か月先の景気の先行き判断 DI は**64.0**であり，12月調査分と比べて7.1ポイント上回りました。また **DI 値は全県を通じて最も高くなりました**。業種別にみてみると，家計動向関連，企業動向関連及び雇用関連の全ての DI が12月調査分を上回りました。

≪主な判断理由≫
・リカー部門の売上げが特に伸びている 。今後も酒税率改定による駆け込み需要が見込まれる。（スーパー）
・つくばエクスプレスの開業に伴い，沿線に新しい生活圏が整備され，企業や工場等も誘致されている。（製造業〔コンクリート製造業〕）

5　県西地域

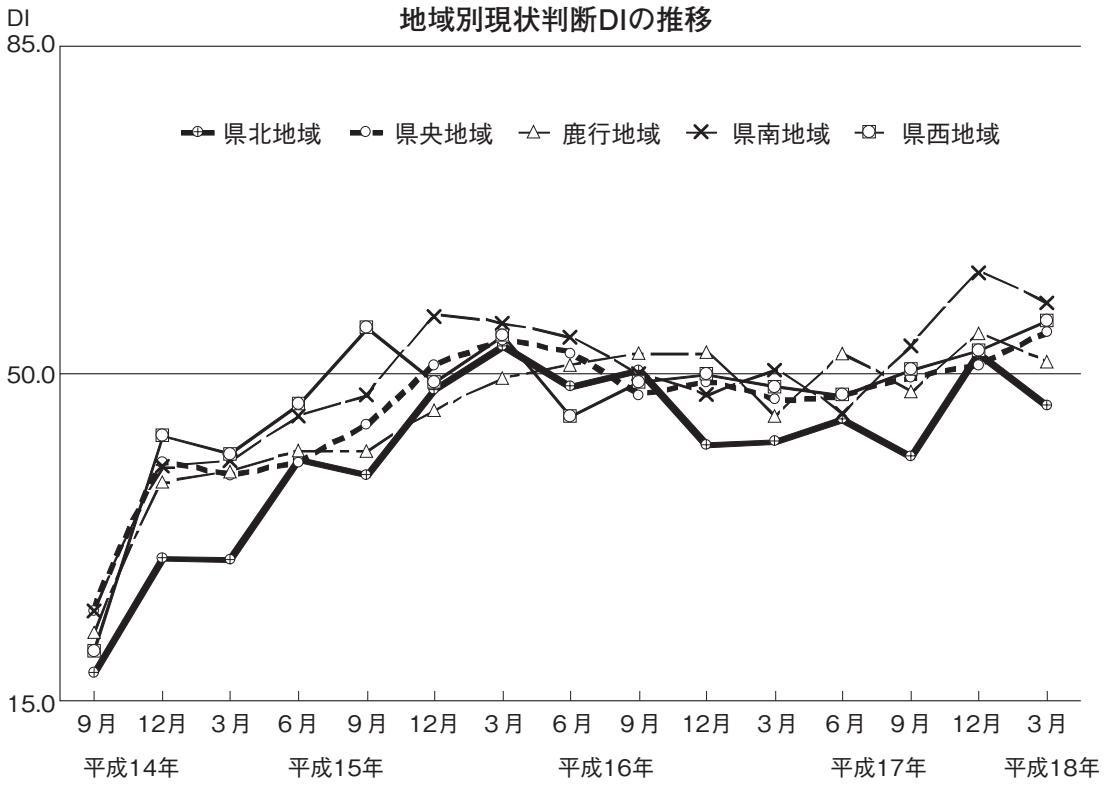
⑴　現状判断：３か月前と比較した景気の現状判断 DI は**55.7**であり，12月調査分と比べて3.2ポイント上回りました。業種別にみてみると，家計動向関連 DI 及び企業動向関連 DI は12月調査分を上回りましたが，雇用関連 DI は12月調査分を下回りました。

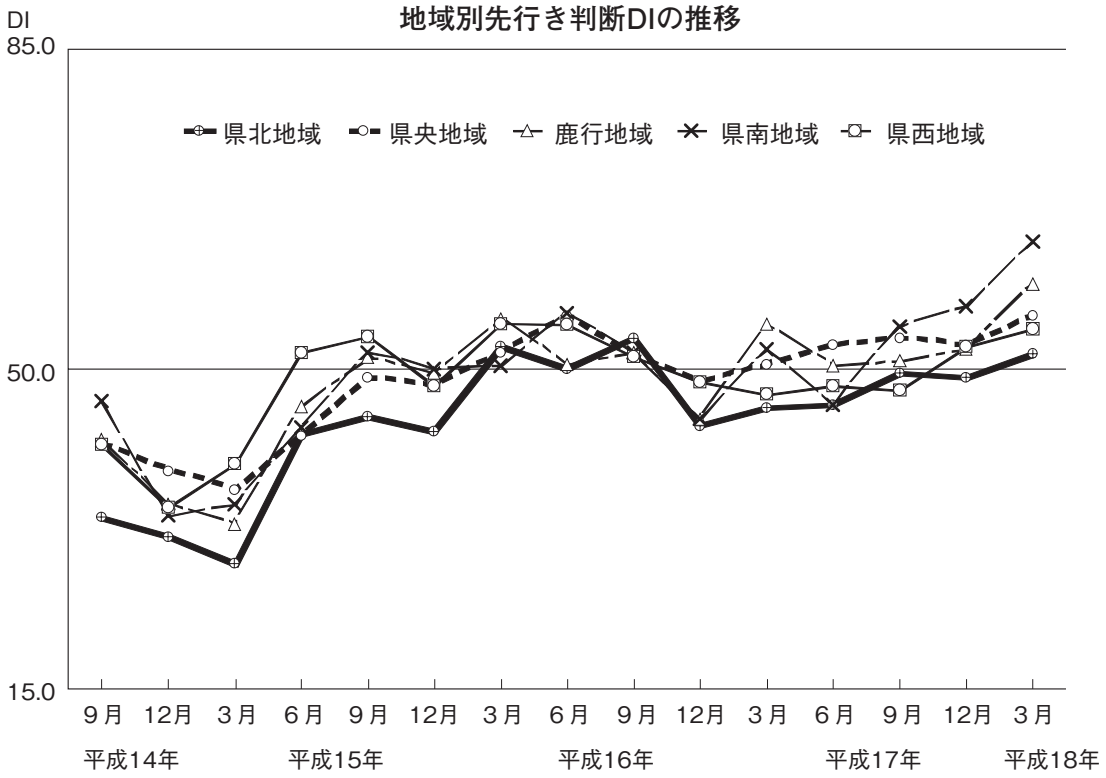
≪主な判断理由≫
・分野により二極化している。デジタル家電等の民生用途は需要が鈍化しているが，パソコン関連用途の材料は急激に伸びている。（製造業〔化学工業〕）
・求人数は多くなっているが，契約・派遣・パートとも条件が悪くなっているので，就職決定には足踏み状態である。（就職相談員）

⑵　先行き判断：３か月先の景気の先行き判断 DI は**54.4**であり，12月調査分と比べて1.9ポイント上回りました。業種別にみてみると，家計動向関連 DI は12月調査分を上回りましたが，企業動向関連 DI は横這い，雇用関連 DI は12月調査分を下回りました。

≪主な判断理由≫
・高齢者にも利用価値・商品価値が認められつつあり，今後，客数・客単価の伸びに繋がっていくことが期待される。（コンビニエンスストア）
・職種にもよるが，３～６月は例年仕事が少ない。（人材派遣業）

■調査から





※平成14年９月は試行調査である